

北海道ドライブ観光促進 プラットフォーム概要

国土交通省 北海道開発局

令和2年11月5日

北海道ドライブ観光促進プラットフォームの概要 国土交通省

(株)ナビタイムジャパンが運営するスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」により外国人観光客の利便性向上に資する情報を発信するとともに、外国人観光客の移動経路等のデータを継続的に把握し、関係機関と共有することで、オール北海道でドライブ観光を促進する枠組みを構築。

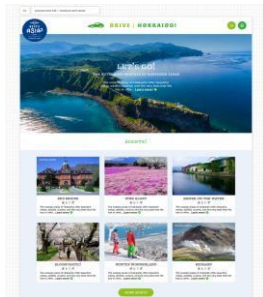
平成30年6月28日設置（11機関）→令和2年10月末現在 104機関

目的

プラットフォームは、アプリから得られる外国人観光客のデータを共有し有効に活用することで、北海道における外国人ドライブ観光の促進を図ることを目的とする。

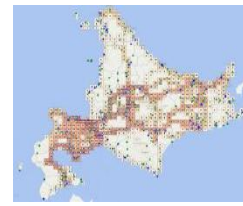
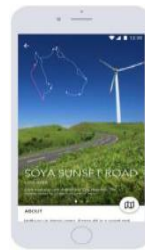
北海道開発局

- ・ **プラットフォームの運営**（事務局）
- ・ アプリ運営への協力
- ・ 参加機関へのSNS等による情報発信
機会の提供



株式会社ナビタイムジャパン

- ・ **アプリの運営**及びデータ取得・整理
- ・ 整理した**データのプラットフォームへの提供**及び利活用に係る助言
- ・ **SNS・WEB**サイトの運営協力 等



参加機関（地方公共団体・観光団体等）

- ・ 共有されたデータの活用等による
外国人ドライブ観光促進の取組を実施
- ・ より多くのデータ収集のために
アプリのダウンロードを促進
- ・ 開発局が所有、株式会社ナビタイム
ジャパンが運営する**SNS等を活用し
観光情報等の発信を実施**

※ 事務局（北海道開発局）にて
参加機関を募集中

四半期毎に外国人観光客の動態に係るデータを会員限定のWEBページで共有するとともに、参加機関が一堂に会してドライブ観光の更なる促進のための情報交換を行う会合を開催

スマートフォンアプリ「DriveHokkaido!」(※)を用いて 来道外国人の位置データを取得



※株式会社ナビタイムジャパンと北海道開発局が共同で開発
リリース2017年7月



E-mail : hokkaido-drive-project@navitime.co.jp

In cooperation with : Hokkaido Regional Development Bureau

- 四半期毎に情報を提供(2019/07ー2019/09等)
- 訪日外国人ヒートマップや流動として提供。



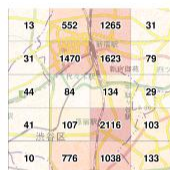
Drive Hokkaido Sample Data

お問い合わせ



用途	訪日外国人に人気の地域、意外なホットスポットを発見できます。
使用データ	Drive HokkaidoIGPSデータ
対象期間	2019年4月1日-2019年6月30日

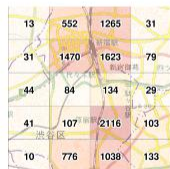
訪日外国人ヒートマップ (2019/07 - 2019/09)



概要	訪日外国人向けアプリで取得したGPSデータを基に、メッシュ毎のユニークユーザ数をカウントしたデータです。
用途	訪日外国人に人気の地域、意外なホットスポットを発見できます。
使用データ	Drive HokkaidoIGPSデータ
対象期間	2019年7月1日-2019年9月30日

全道連続移動履歴

訪日外国人ヒートマップ (2019/10 - 2019/12)



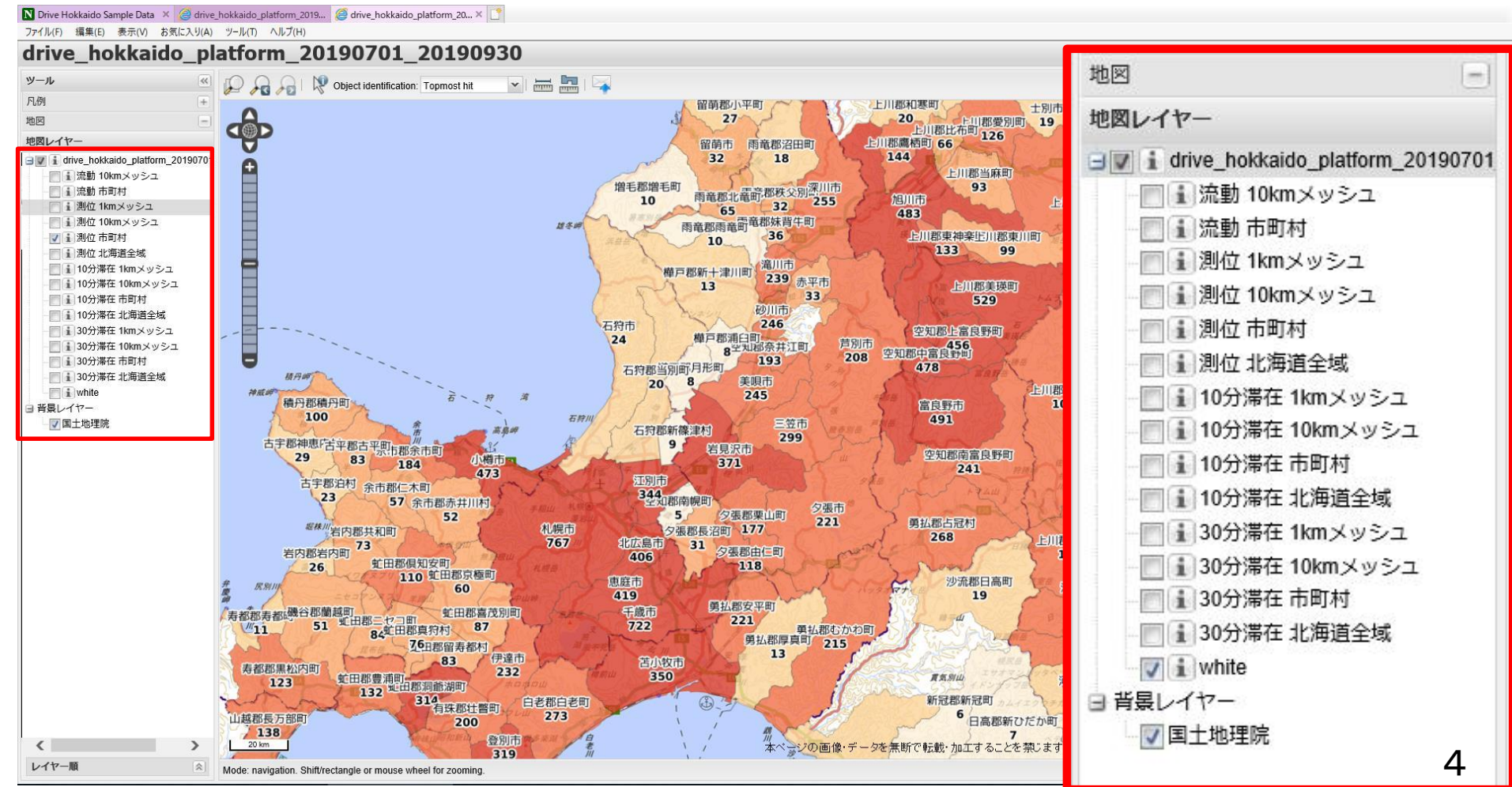
概要	訪日外国人向けアプリで取得したGPSデータを基に、メッシュ毎のユニークユーザ数をカウントしたデータです。
用途	訪日外国人に人気の地域、意外なホットスポットを発見できます。
使用データ	Drive HokkaidoIGPSデータ
対象期間	2019年10月1日-2019年12月31日

訪日外国人ヒートマップ (2020/01 - 2020/03)



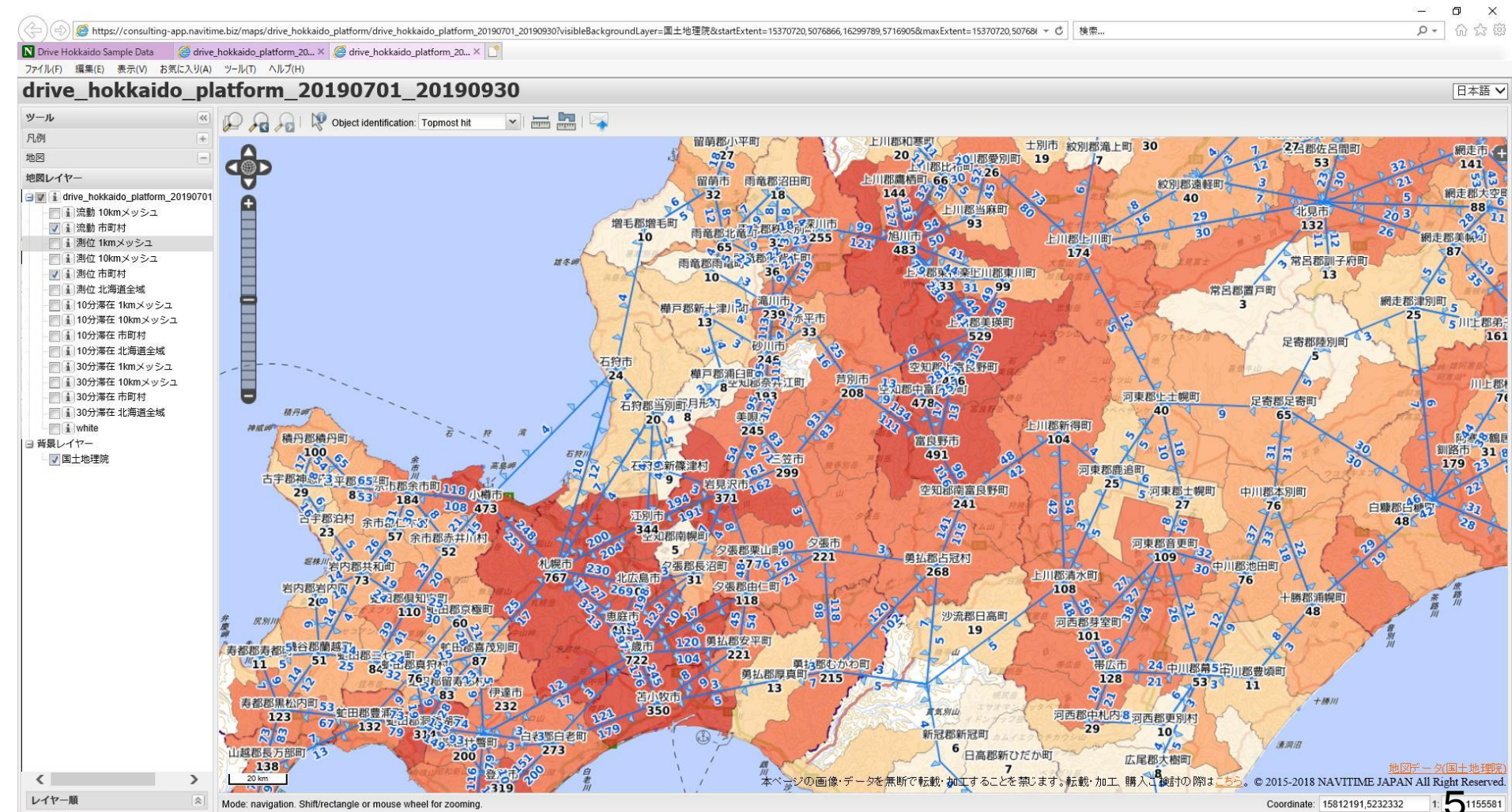
概要	訪日外国人向けアプリで取得したGPSデータを基に、メッシュ毎のユニークユーザ数をカウントしたデータです。
用途	訪日外国人に人気の地域、意外なホットスポットを発見できます。
使用データ	Drive HokkaidoIGPSデータ

○市町村、10kmメッシュ、1kmメッシュ単位の「測位」、「滞在(30分以上)」が選択可能。

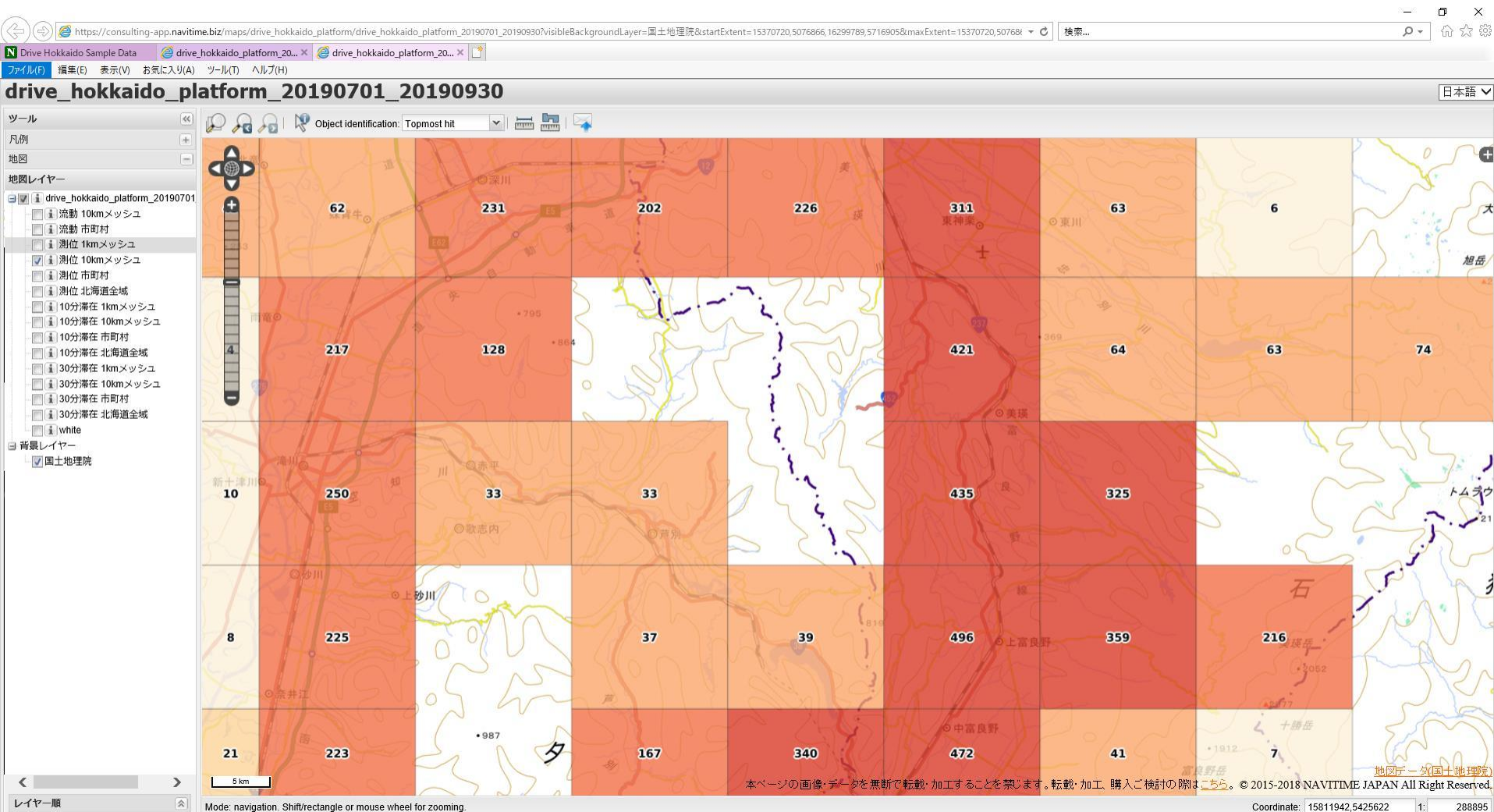


○市町村、10kmメッシュの「流動」も表示可能。

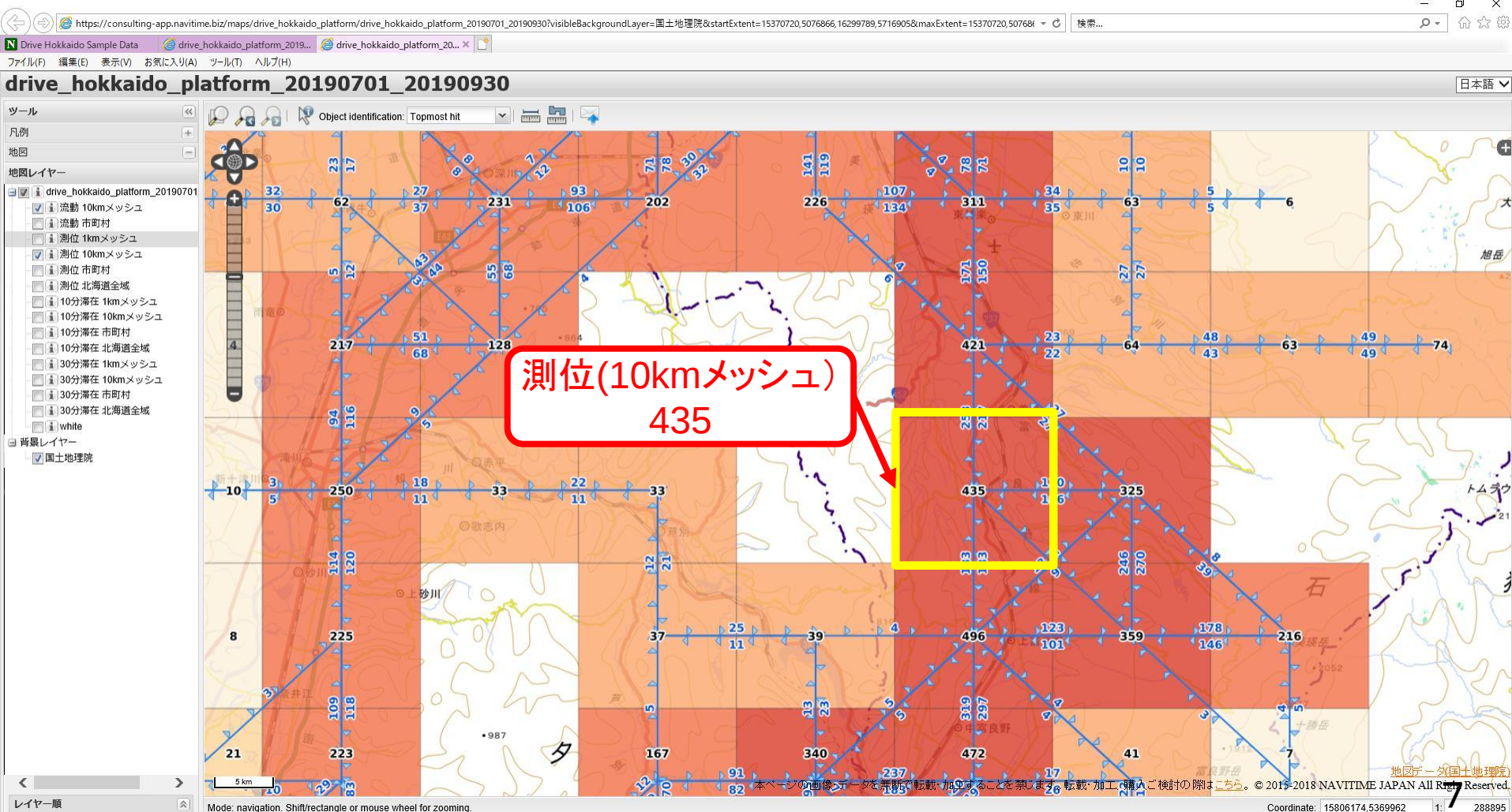
※「流動」とは、特定の市町村で測位した者が、どここの市町村に移動したのか、その流動を示した図。



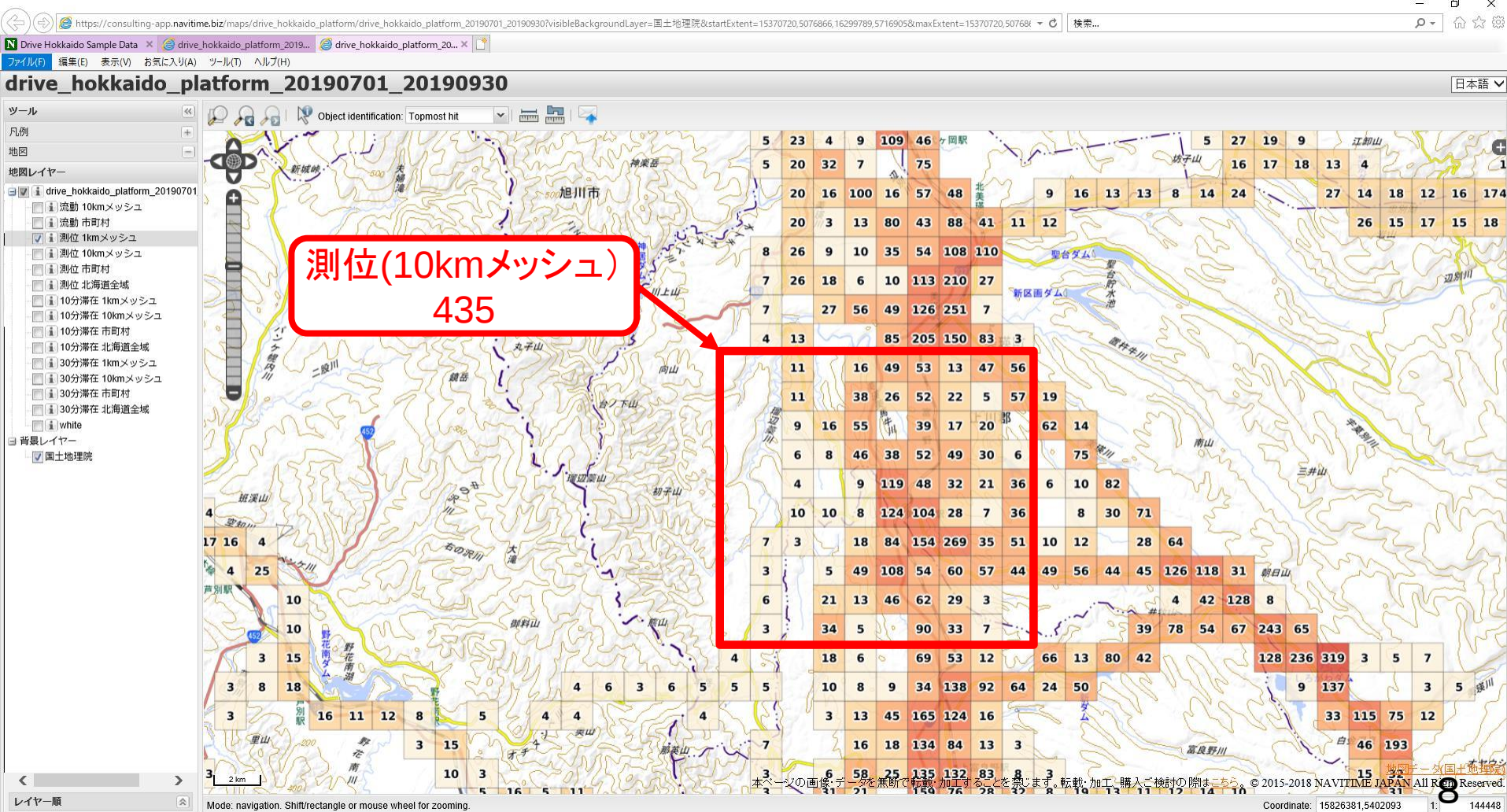
○10kmメッシュの測位情報。



○市町村、10kmメッシュの測位と流動情報。



○1kmメッシュの測位情報。



外国人ドライブ観光客の周遊・ 滞在実態について (2019年1月～12月)

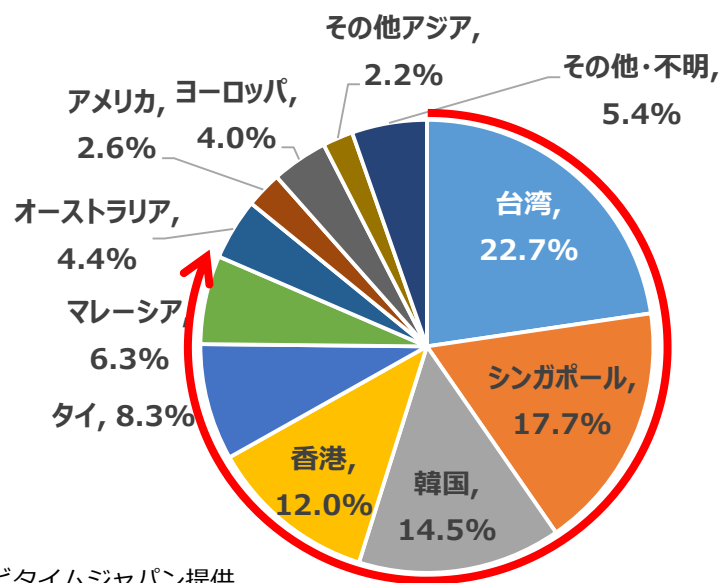
国土交通省 北海道開発局
令和2年11月5日

1.2019年に取得されたデータ

- ・2019年は2,166人のデータを取得。これにより、2018年に取得したデータとの比較が初めて可能となった。
- ・国・地域別割合は、**上位4カ国は全てアジアで、台湾、シンガポール、韓国、香港の順に多い。**
- ・国・地域別外国人レンタカー貸渡件数に対するアプリ測位者数割合は、**シンガポールが高く、韓国や香港はやや低い。**

● アプリ測位者の国・地域別割合

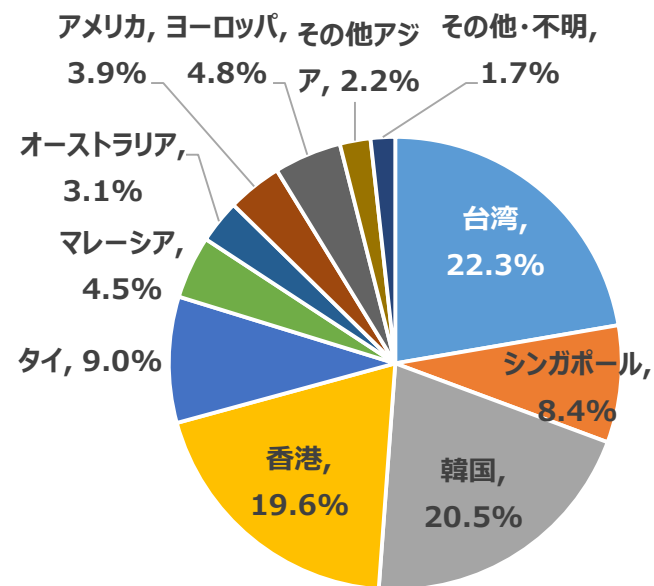
調査期間	19/1/1～12/31
サンプル数	2,166人



ナビタイムジャパン提供
アプリ「Drive Hokkaido!」アンケートデータ

● 外国人レンタカー貸渡件数の国・地域別割合

調査期間	19/1/1～12/31
貸渡件数	103,050件

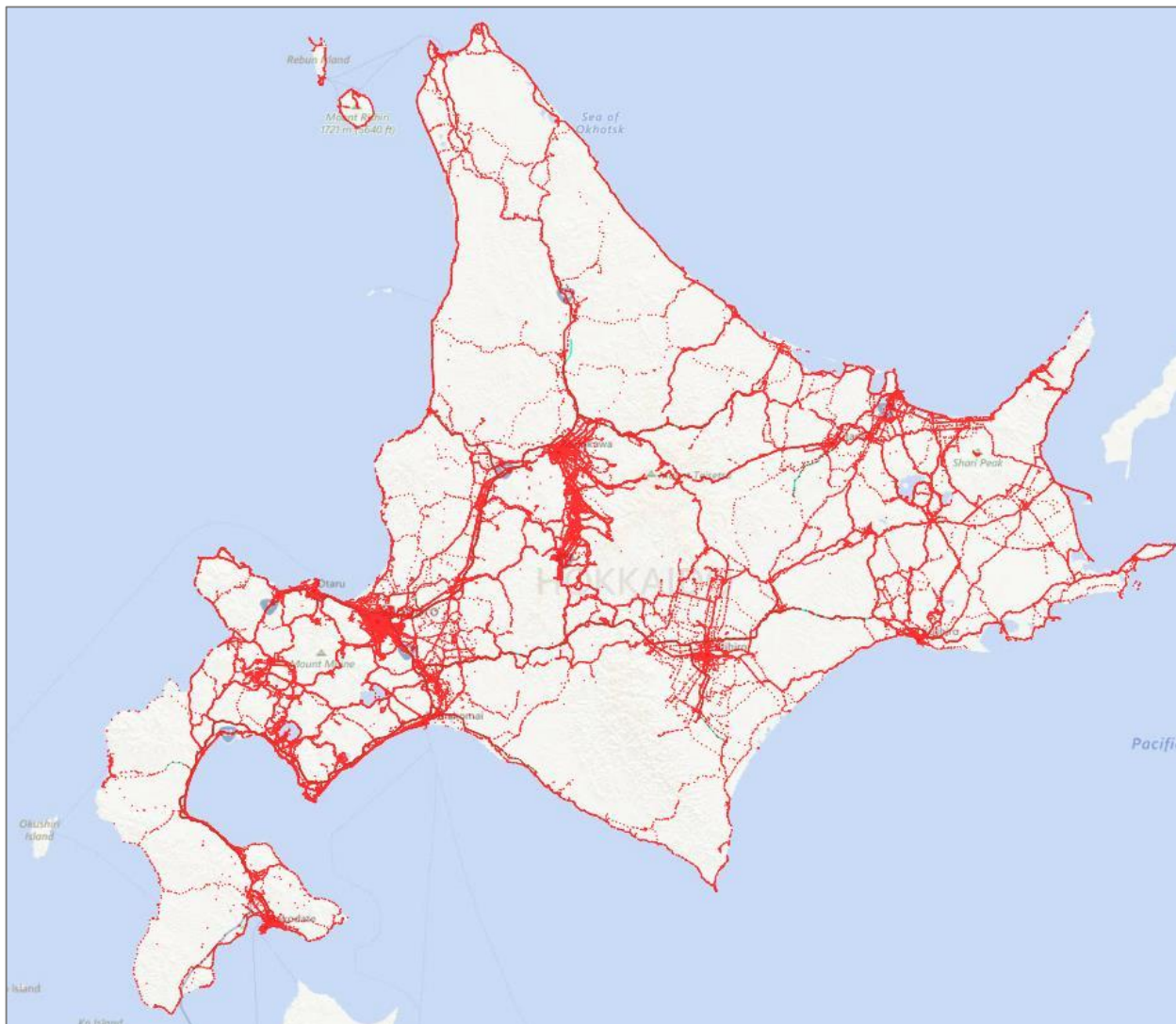


北海道地区レンタカー協会連合会提供資料

※ サンプル数は、各期間の合計から期間をまたがって滞在し、重複してカウントされた者を除いた人数

1. 2019年に取得されたGPSデータ

● GPSデータの取得状況 2019/1/1～12/31



- GPSデータは、携帯端末の位置情報利用を許可しているなど、一定の条件を満たしている限り、2分間に1回の頻度で取得。
- 取得された**2,166人分**のGPSデータを重ね合わせると左図のとおりとなる。
- レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域も含めて、北海道内各地をドライブしていることが伺える。

2 .測位者数・滞在者数

周遊・滞在の概況

■外国人ドライブ観光客は、北海道内各地を広域に周遊。

- レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域を含めて、北海道内各地を広域に周遊。(図2)
- 2018年と2019年の測位者数・滞在者数の相対的な分散の状況を比較すると、2019年は宗谷地方や留萌地方の海側で測位者数・滞在者数ともに多く、日高地方・十勝地方の海側では測位者数が多い傾向が見られる。(図1,2,3,4)

図1.GPSデータ測位者数 (10kmメッシュ)

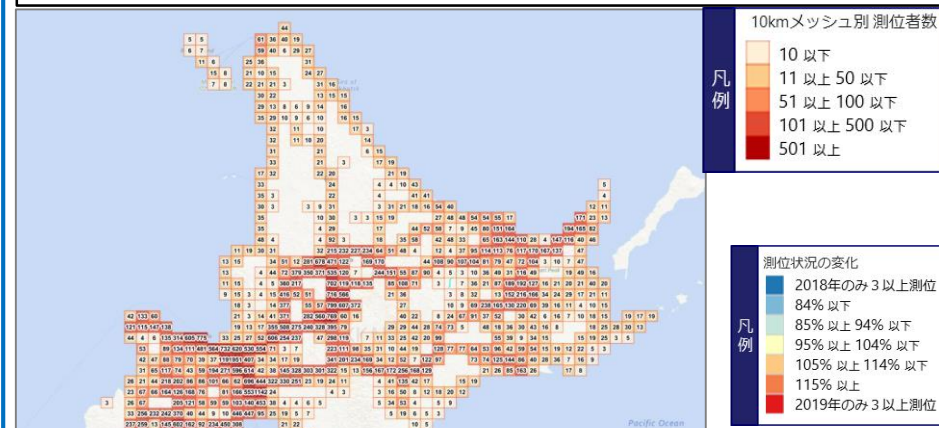
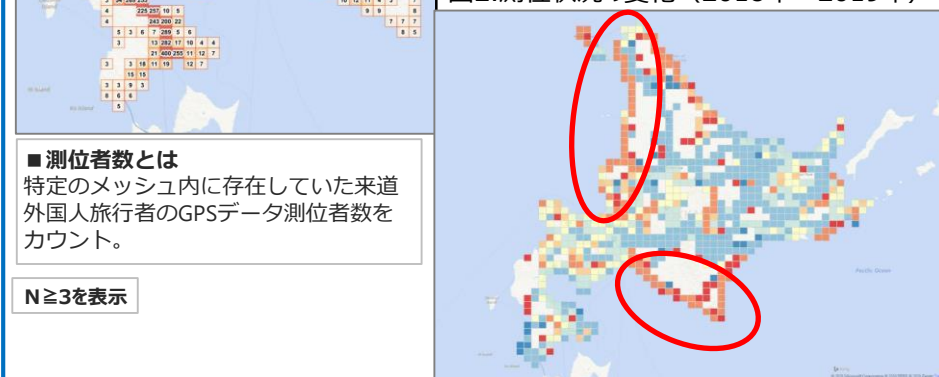


図2.測位状況の変化 (2018年→2019年)



■測位者数とは

特定のメッシュ内に存在していた来道外国人旅行者のGPSデータ測位者数をカウント。

N≥3を表示

図2はその年の測位者数の合計に占める各メッシュの測位者数の割合の変化を表した図

$$\text{測位状況の変化 (図2)} = \frac{\text{2019年の各メッシュの測位者数}}{\text{2019年の測位者数の合計}} \div \frac{\text{2018年の各メッシュの測位者数}}{\text{2018年の測位者数の合計}}$$

※図2及び図4は滞在が把握されたユーザー等の測位・滞在データのみで整理 (2019年: 2,166人、2018年: 1,771人)

図3.GPSデータ滞在者数 (10kmメッシュ)

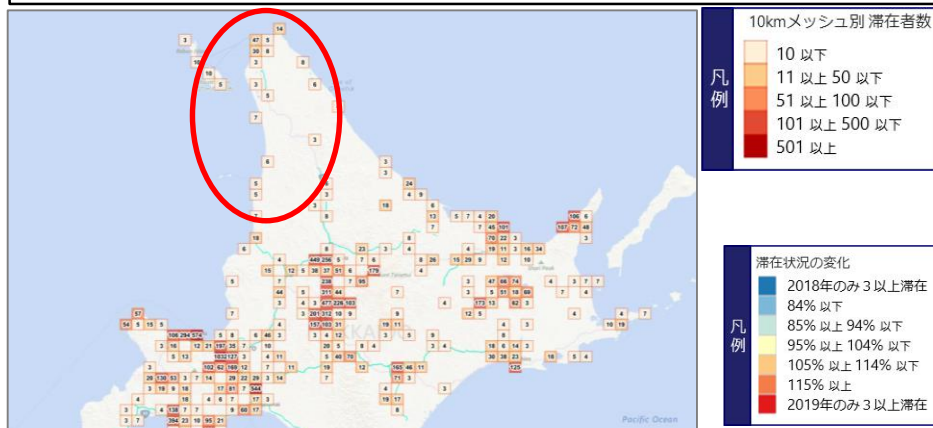
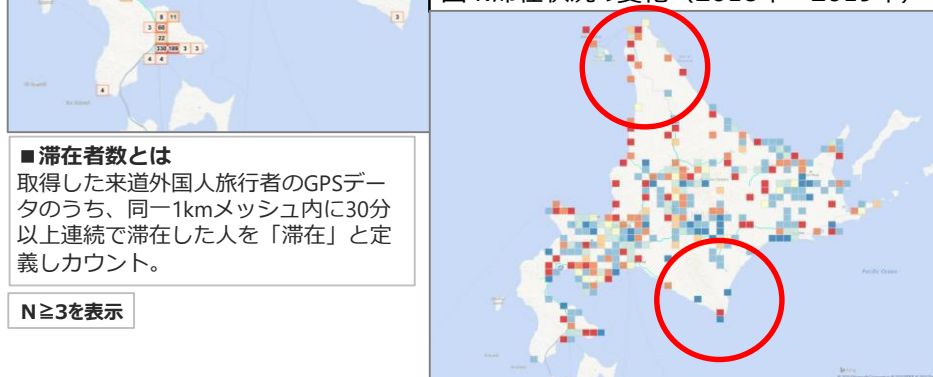


図4.滞在状況の変化 (2018年→2019年)



■滞在者数とは

取得した来道外国人旅行者のGPSデータのうち、同一1kmメッシュ内に30分以上連続で滞在した人を「滞在」と定義しカウント。

N≥3を表示

図45はその年の滞在者数の合計に占める各メッシュの滞在者数の割合の変化を表した図

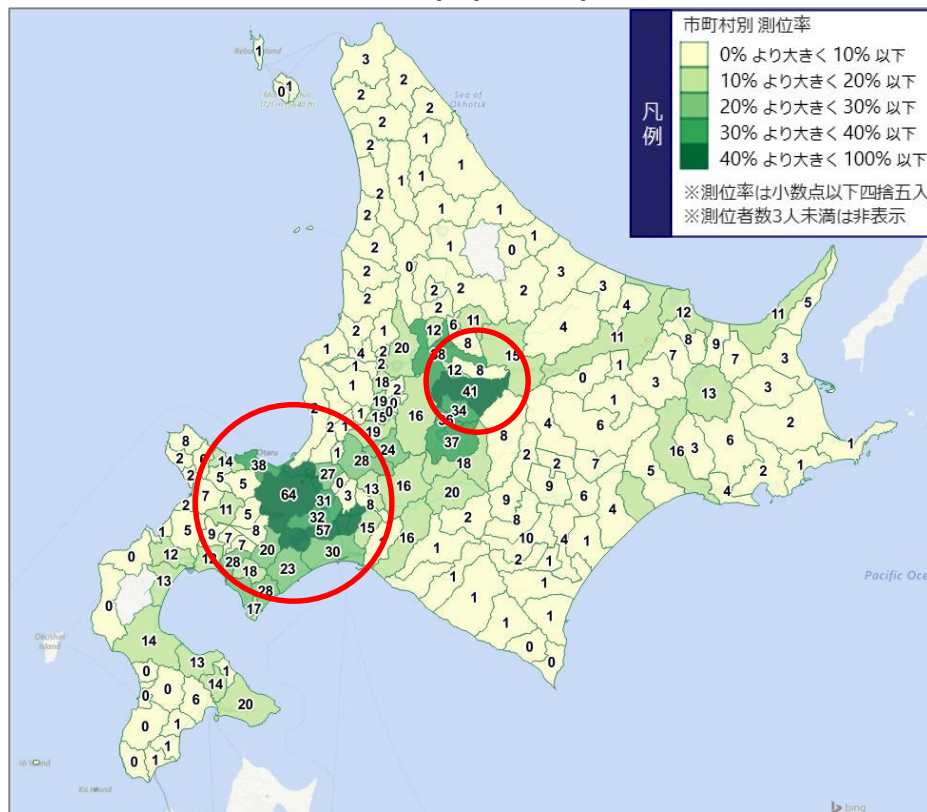
$$\text{滞在状況の変化 (図4)} = \frac{\text{2019年の各メッシュの滞在者数}}{\text{2019年の滞在者数の合計}} \div \frac{\text{2018年の各メッシュの滞在者数}}{\text{2018年の滞在者数の合計}}$$

3.測位・滞在分析 測位率・滞在率

・測位率は、札幌市・千歳市・美瑛町が最も高く40%を超えており、これらの市町村に引っ張られる形で、周辺市町村の測位率も高くなっている。

・滞在率は、稚内市、帯広市、函館市、斜里町など、**各圏域の中心となるような市町村で高くなっている。**

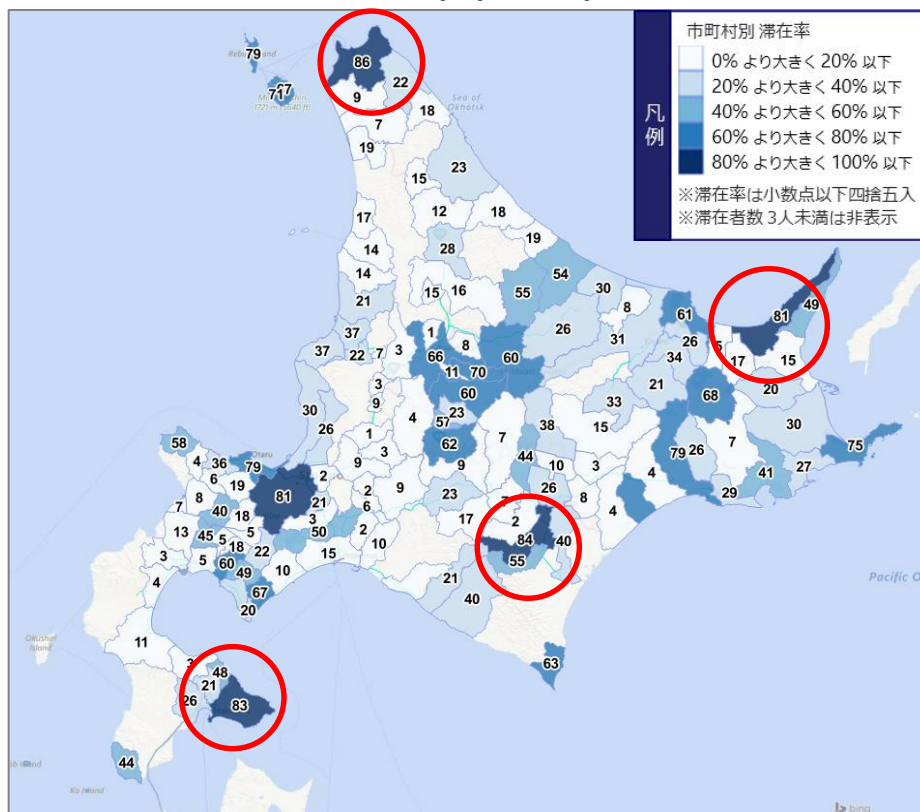
● 市町村別 測位率図 (2019/1/1～12/31)



■ 測位率とは

市町村別で測位された人数を北海道全体で測位された人数(2,166人)で除した値

● 市町村別 滞在率図 (2019/1/1～12/31)



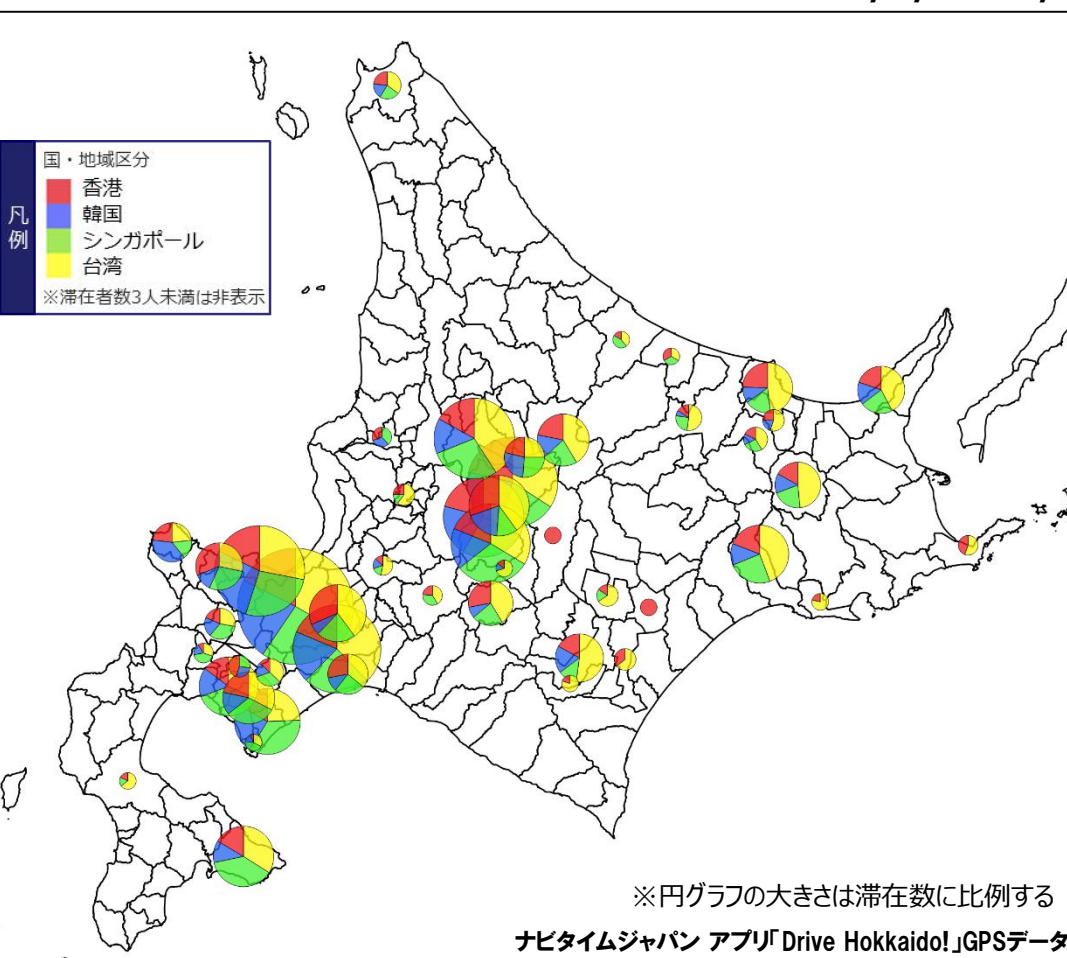
■ 滞在率とは

市町村別に滞在判定された人数を各市町村の測位者数で除した値。
当該エリアを通過せずに立ち寄った比率を示す。
測位者数が少ない市町村であっても、高い数値となる点に留意が必要。

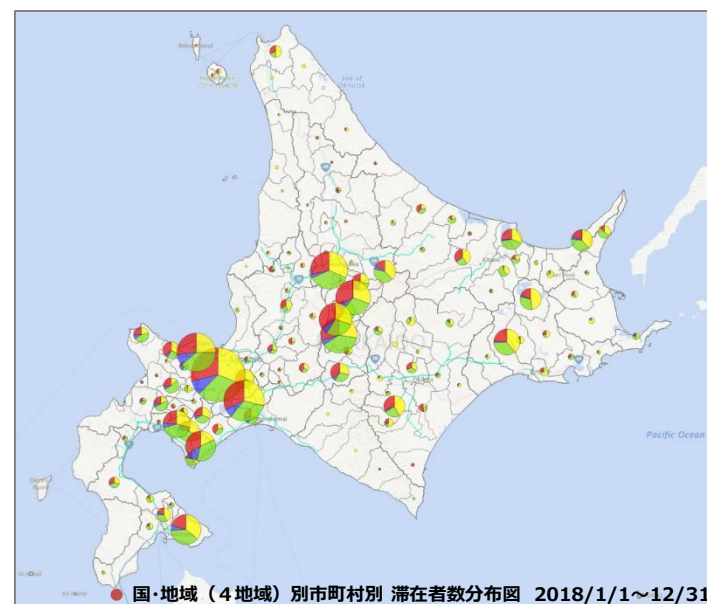
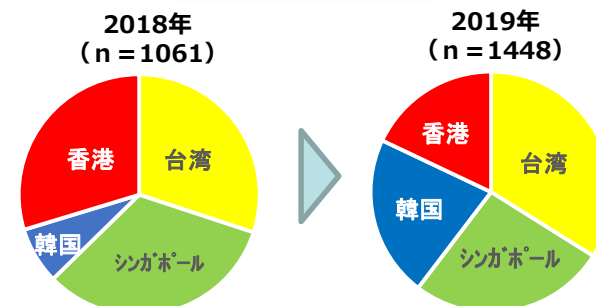
4.測位・滞在分析 滞在 ～国・地域別円グラフ～

- ・ドライブ観光客の多くを占める4か国・地域について滞在者数の分布を表示。
- ・全道の国・地域別割合と比較すると、**台湾は道東方面での割合が高くなる傾向**が見られた。
- ・**韓国**は、**2018年は札幌市周辺や美瑛・富良野エリア周辺で滞在が多く確認されていたが、2019年は道北、道南、道東など道内の広い範囲で滞在が確認された。**

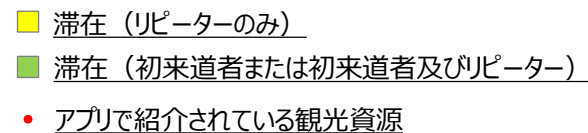
● 国・地域（4地域）別市町村別 滞在者数分布図 2019/1/1～12/31



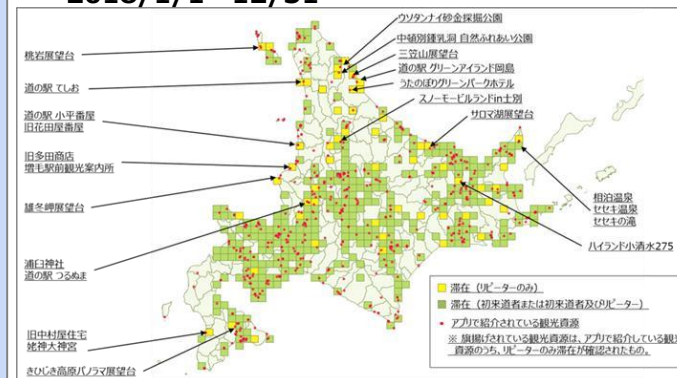
全道の国・地域別割合



- 10km_滞在メッシュ図 2019/1/1~12/31



● 10km滞在及び滞在点図
2018/1/1～12/31



6. 圏域別宿泊割合

周遊・滞在の実態

■外国人ドライブ観光客は、来道外国人旅行者全体に比べ、より地方部を訪れ、より長い期間滞在。

【地方部への誘導（圏域別宿泊割合）】

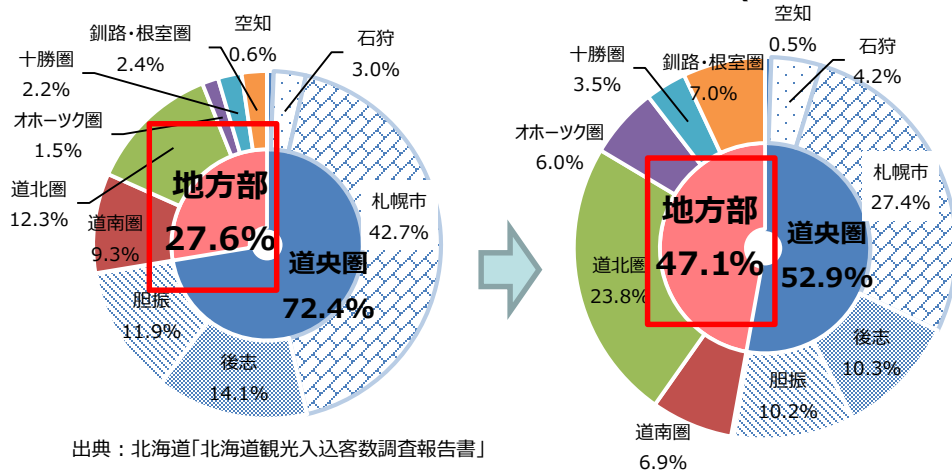
- 外国人ドライブ観光客の宿泊地は、地方部（道央圏以外）が**47.1%**。（図6）
- これは、他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体**27.6%**（2018年度:北海道庁調査）よりも高い。
なお、これは2017.9-11の外国人ドライブ観光客42.5%（2017年9-11月）よりも高く、2018年の外国人ドライブ観光客47.4%（2018年）とほぼ同様の結果となっている。（図8）

■宿泊とは

本分析では、21時～翌3時の間GPSデータが測位された最後の市町村を「宿泊地」とみなしている。

図6.圏域別宿泊割合

【参考】来道外国人旅行者全体（2018年度） 外国人ドライブ観光客（GPSデータ:2019年）



【旅行日数】

- 外国人ドライブ観光客の平均旅行日数は**5.7日**（昨年6.2日）。（図7）
- 他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体**3.7日**（北海道庁調査 2018年度より計算）よりも長い結果となった。

※2018年に比べ、外国人ドライブ観光客の平均旅行日数が減少している理由としては、旅行日数が比較的短い韓国のアプリ利用者の増加が考えられる。（図11,12）
アプリユーザーに占める韓国からの旅行者の割合：
2018年 4.8% → 2019年 14.5%

図7.平均旅行日数

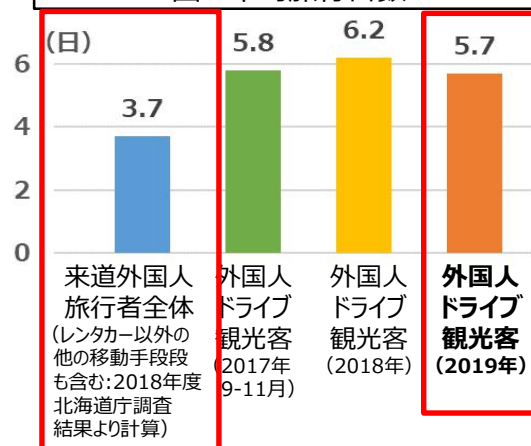
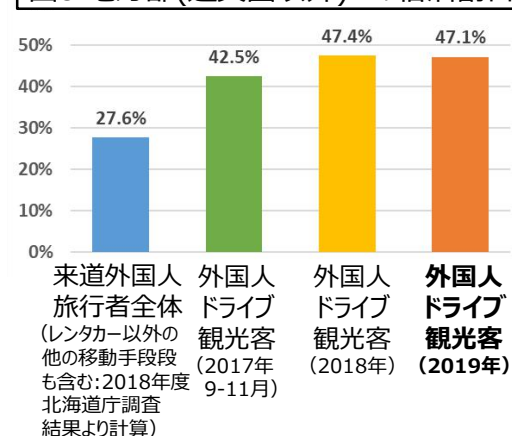


図8.地方部（道央圏以外）への宿泊割合



- ## ● 市町村別 延べ宿泊者



8. 宿泊地分析 宿泊状況 ～市町村別～

- ・宿泊割合は、札幌市、函館市、稚内市、帯広市で50%を超えている。
- ・平均宿泊日数は、倶知安町や留寿都村が長く、連泊するものが多いことが確認できる。

● 市町村別宿泊割合 上位20市町村

順	市町村	圏域	測位者数 (A)	宿泊者数 (B)	宿泊割合 (B/A)
1	札幌市	道央	1381	930	67.3%
2	函館市	道南	424	283	66.7%
3	稚内市	道北	74	46	62.2%
4	帯広市	十勝	215	113	52.6%
5	斜里町	オホーツク	230	114	49.6%
6	釧路市	釧路・根室	346	171	49.4%
7	旭川市	道北	831	396	47.7%
8	網走市	オホーツク	254	105	41.3%
9	小樽市	道央	815	321	39.4%
10	弟子屈町	釧路・根室	289	104	36.0%
11	富良野市	道北	811	275	33.9%
12	上川町	道北	322	109	33.9%
13	東川町	道北	183	60	32.8%
14	登別市	道央	615	197	32.0%
15	洞爺湖町	道央	606	187	30.9%
16	壮瞥町	道央	394	89	22.6%
17	二セコ町	道央	187	40	21.4%
18	倶知安町	道央	247	49	19.8%
19	千歳市	道央	1224	206	16.8%
20	占冠村	道北	433	57	13.2%

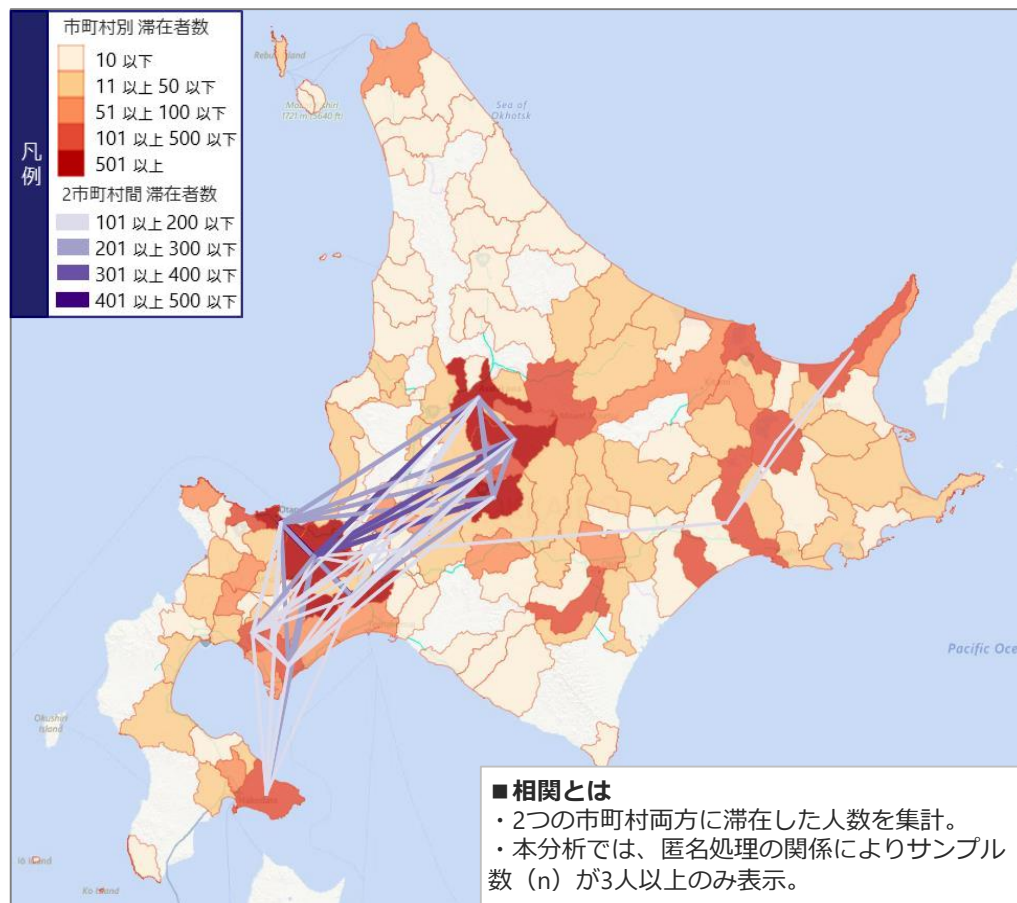
● 市町村別平均宿泊日数 上位20市町村

順	市町村	圏域	宿泊者数 (B)	延べ宿泊者数 (C)	平均宿泊日数 (C/B)	参考： 測位者数
1	倶知安町	道央	49	123	2.51	247
2	留寿都村	道央	20	42	2.10	155
3	札幌市	道央	930	1823	1.96	1381
4	北斗市	道南	19	31	1.63	129
5	二セコ町	道央	40	57	1.43	187
6	旭川市	道北	396	557	1.41	831
7	函館市	道南	283	397	1.40	424
8	中富良野町	道北	41	57	1.39	770
9	室蘭市	道央	49	68	1.39	375
10	釧路市	釧路・根室	171	237	1.39	346
11	占冠村	道北	57	78	1.37	433
11	斜里町	オホーツク	114	156	1.37	230
13	東川町	道北	60	80	1.33	183
14	網走市	オホーツク	105	139	1.32	254
15	富良野市	道北	275	364	1.32	811
16	美瑛町	道北	94	124	1.32	890
17	稚内市	道北	46	60	1.30	74
18	弟子屈町	釧路・根室	104	135	1.30	289
19	小樽市	道央	321	409	1.27	815
20	上富良野町	道北	53	66	1.25	738

9. 相関・流動分析 相関分析

- ・相関上位30のうち、札幌市と小樽市に絡む相関がそれぞれ9と最も多い。次いで、千歳市、富良野市、中富良野町、美瑛町と続く。これらの市町村が、北海道のドライブ観光のハブになっていることがうかがえる。
- ・主な相関は、道央圏と道北圏に集中しており、この傾向は2018年と同様である。

●相関関係の強い主な市町村



●相関上位30市町村

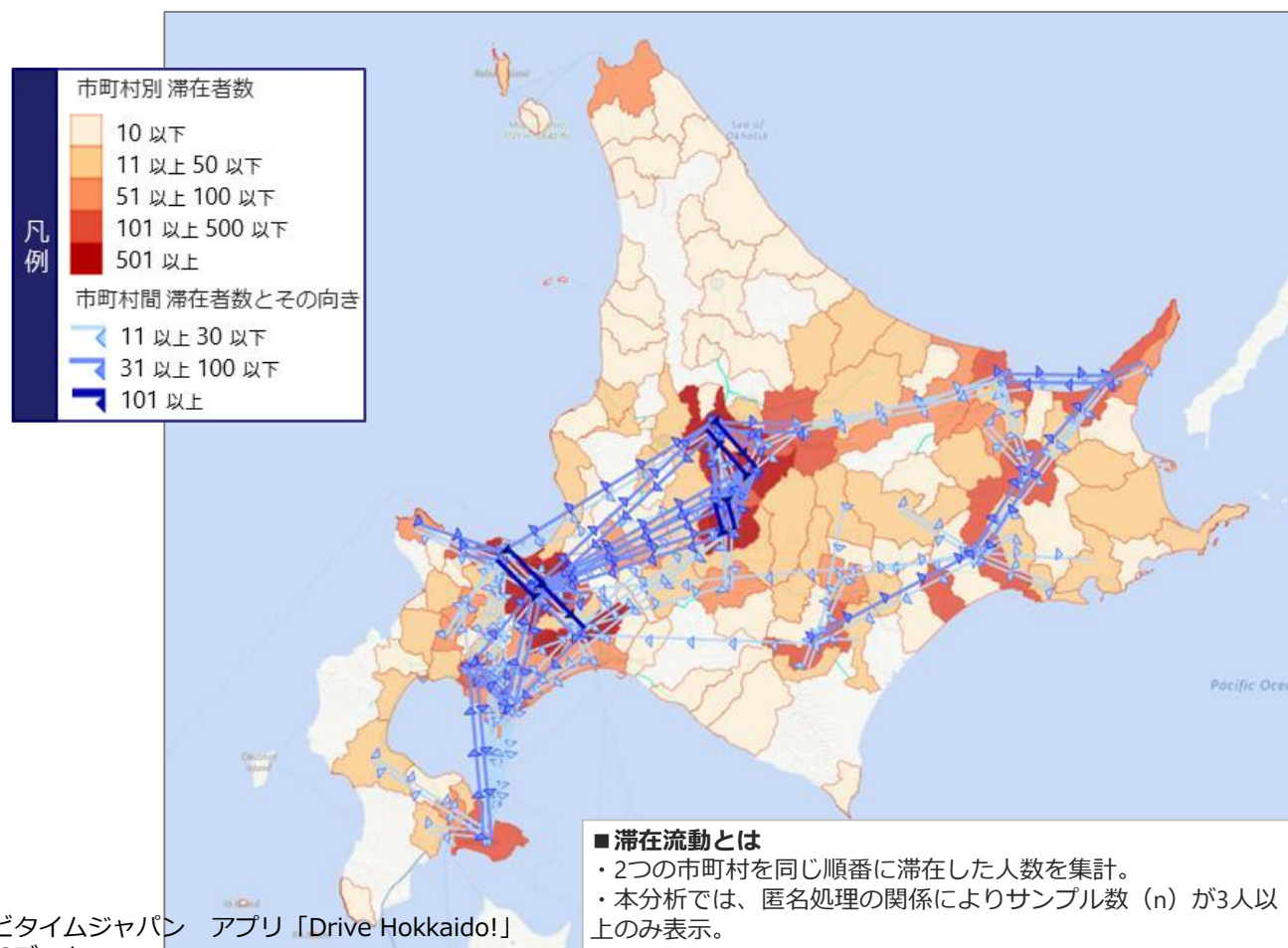
順	市町村A		市町村B		2019年		2018年		増減 (2019-2018)	
	市町村名	圏域	市町村名	圏域	滞在 者数	割合 ※1	滞在 者数	割合 ※2	数	増減率
1	札幌市	道央	小樽市	道央	480	22.2%	426	23.3%	54	12.7%
2	札幌市	道央	千歳市	道央	396	18.3%	396	21.6%	0	0.0%
3	札幌市	道央	美瑛町	道北	357	16.5%	298	16.3%	59	19.8%
4	札幌市	道央	旭川市	道北	345	15.9%	344	18.8%	1	0.3%
5	札幌市	道央	富良野市	道北	320	14.8%	319	17.4%	1	0.3%
6	札幌市	道央	中富良野町	道北	303	14.0%	291	15.9%	12	4.1%
7	美瑛町	道北	中富良野町	道北	291	13.4%	245	13.4%	46	18.8%
8	札幌市	道央	登別市	道央	286	13.2%	240	13.1%	46	19.2%
9	富良野市	道北	美瑛町	道北	270	12.5%	245	13.4%	25	10.2%
10	旭川市	道北	美瑛町	道北	269	12.4%	235	12.8%	34	14.5%
11	富良野市	道北	中富良野町	道北	257	11.9%	250	13.6%	7	2.8%
12	小樽市	道央	千歳市	道央	252	11.6%	264	14.4%	-12	-4.5%
13	小樽市	道央	美瑛町	道北	240	11.1%	208	11.4%	32	15.4%
14	札幌市	道央	洞爺湖町	道央	239	11.0%	203	11.1%	36	17.7%
15	小樽市	道央	旭川市	道北	231	10.7%	220	12.0%	11	5.0%
16	千歳市	道央	美瑛町	道北	220	10.2%	207	11.3%	13	6.3%
17	旭川市	道北	中富良野町	道北	217	10.0%	204	11.1%	13	6.4%
18	旭川市	道北	富良野市	道北	216	10.0%	222	12.1%	-6	-2.7%
19	札幌市	道央	函館市	道南	214	9.9%	223	12.2%	-9	-4.0%
19	小樽市	道央	富良野市	道北	214	9.9%	196	10.7%	18	9.2%
19	小樽市	道央	中富良野町	道北	214	9.9%	203	11.1%	11	5.4%
22	小樽市	道央	登別市	道央	210	9.7%	165	9.0%	45	27.3%
23	千歳市	道央	富良野市	道北	202	9.3%	193	10.5%	9	4.7%
24	旭川市	道北	千歳市	道央	199	9.2%	214	11.7%	-15	-7.0%
25	登別市	道央	洞爺湖町	道央	195	9.0%	141	7.7%	54	38.3%
26	小樽市	道央	洞爺湖町	道央	190	8.8%	145	7.9%	45	31.0%
27	千歳市	道央	登別市	道央	187	8.6%	157	8.6%	30	19.1%
28	千歳市	道央	中富良野町	道北	177	8.2%	192	10.5%	-15	-7.8%
29	函館市	道南	小樽市	道央	165	7.6%	146	8.0%	19	13.0%
30	千歳市	道央	洞爺湖町	道央	158	7.3%	143	7.8%	15	10.5%

※1 北海道滞在者 (2,166uu) を母数としたときの割合

※2 北海道滞在者 (1,832uu) を母数としたときの割合

10. 相関・流動分析 流動分析

- ・石狩と渡島、石狩と上川、上川とオホーツク、オホーツクと釧路、それぞれの範囲での滞在流動が多い様子が見られる。
- ・上川については、圏域内での流動もみられるが、他の圏域とのつながりも大きく北海道全域における観光の軸となっている様子が見える。
- ・洞爺湖町および登別市に着目すると、洞爺湖町は函館市と、登別市は札幌市と、それぞれ滞在流動が多い。



■ 外国人ドライブ観光客は北海道内各地を広域に周遊し、来道外国人旅行者全体に比べ、より地方部を訪れ、より長い期間滞在しており、ドライブ観光の促進は、来道外国人旅行者の地方部への誘客に有効。

■ 地域間・観光施設間の結びつき等を把握することで、より効果的な観光関連施策の企画立案や効果検証が可能。

※ 地域での目的（戦略・ビジョン等）を明確にした上で、これらのデータを活用していただくことが重要。

【北海道開発局 ホームページ】

○北海道外国人ドライブ観光客促進プラットフォーム

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001bhbx.html>

○北海道における外国人ドライブ観光の2019年分析結果

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001qwii.html>

(※ 全道分析以外にも、全道15エリアの地域分析も掲載しております)